



## 第158期救急科を実施しました

[期 間] 令和8年1月14日（水）から3月4日（水）まで  
34日間

[会 場] 埼玉県消防学校  
所属消防本部（局）

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な  
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊  
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任  
教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 23消防本部（局）81名  
平均年齢23.8歳

# 埼玉県消防学校 第158期救急科 日課表

令和8年1月14日(水)～令和8年3月4日(水)  
34日間 272時間

## 受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

日	曜日	1時限 8:30～9:20	2時限 9:20～10:10	3時限 10:10～11:00	4時限 11:10～12:00	5時限 13:00～13:50	6時限 13:50～14:40	7時限 14:50～15:40	8時限 15:50～16:40
1/14	水	入校式	ガイダンス (担当教官)			救急活動(法規) (戸田市消防本部 講師)			
1/15	木	循環器・出血 (川口市消防局 講師)				神経 (深谷市消防本部 講師)			
1/16	金	消化器 (西入間広域消防組合消防本部 講師)			呼吸器 (行田市消防本部 講師)		救急医療 (医療整備課)		
1/19	月	効果測定① (担当教官)	泌尿・生殖器 (埼玉東部消防組合消防局 講師)			運動器 (埼玉県央広域消防本部 講師)			社会保障・社会福祉Ⅰ (国保医療課)
1/20	火	観察 (さいたま市消防局 講師)				内分泌・代謝 (埼玉県南西部消防局 講師)		皮膚・感覚器 (吉川松伏消防組合消防本部 講師)	
1/21	水	ショック (熊谷市消防本部 講師)				CPA・CPR (蕨市消防本部 講師)			
1/22	木	血液・体液・熱中症 (埼玉県南西部消防局 講師)			鑑識 (埼玉県警察)	細菌・感染症・感染防止・消毒 (上尾市消防本部 講師)			
座学	1/23	応急処置総論・各論 (埼玉西部消防局 講師)				熱傷・電撃症・救急搬送 (埼玉西部消防局 講師)			
	1/26	急性心血管系疾患 (比企広域消防本部 講師)				急性腹部疾患 (羽生市消防本部 講師)			
	1/27	急性呼吸器疾患 (児玉郡市広域消防本部 講師)				脳血管障害 (草加八潮消防局 講師)			
	1/28	一般外傷各論 (春日部市消防本部 講師)				意識障害 (熊谷市消防本部 講師)			
	1/29	外傷総論・その他外傷処置 (埼玉東部消防組合消防局 講師)				胸部外傷 (三郷市消防本部 講師)			
	1/30	腹部外傷 (蓮田市消防本部 講師)				集団災害 (川越地区消防局 講師)			
	2/2	頭部・顔面外傷 (秩父消防本部 講師)				脊椎・脊髄損傷 (埼玉西部消防局 講師)			
	2/3	効果測定② (担当教官)	検査・高齢者 (坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部 講師)			処置各論(在宅療法) (入間東部地区事務組合消防本部 講師)			
	2/4	急性中毒 (川口市消防局 講師)			資機材取扱	処置各論(心電図) (埼玉県央広域消防本部 講師)			
第一回事前	2/5	小児救急医療 (さいたま市消防局 講師)				産科・周産期 (草加八潮消防局 講師)			
第二回事前	2/6	精神救急 (上尾市消防本部 講師)			社会保障・社会福祉Ⅱ (社会福祉課)	四肢・骨盤外傷 (越谷市消防局 講師)			
第三回事前	2/9	異物・溺水 (越谷市消防局 講師)			接遇 (さいたま市消防局 講師)	安全管理		実技訓練概要 (担当教官)	

## 訓練場所 埼玉県消防学校 大講義室 屋内訓練場

		1時限 8:30~9:20	2時限 9:20~10:10	3時限 10:10~11:00	4時限 11:10~12:00	5時限 13:00~13:50	6時限 13:50~14:40	7時限 14:50~15:40	8時限 15:50~16:40	
実技	2/10	火	資機材取扱訓練				6ブース基本訓練			
	2/12	木	外傷訓練（資機材取扱）・CPR対応訓練				内因訓練（各種評価・観察問診・気道管理）			
	2/13	金	内因訓練（意識レベル評価・バイタル測定）				外傷訓練（状況評価・初期評価）・CPR対応訓練			
	2/16	月	外傷訓練（腹臥位3想定）・AED4波形訓練				内因訓練（喉頭展開訓練）			
	2/17	火	内因訓練（喉頭展開訓練・SSN訓練）				外傷訓練（全身観察・緊急処置）			
	2/18	水	ストレッチャー曳航訓練・トリアージ訓練 車外救出訓練				内因訓練（各種症例）			
	2/19	木	外傷訓練（初期評価～全身観察） CPR対応訓練				内因訓練（各種症例）			
	2/20	金	外傷訓練（指令～ファーストコール） 小児・乳児CPR対応訓練				産婦人科救急訓練			
	2/24	火	内因性シミュレーション							
	2/25	水	外因性シミュレーション							
	2/26	木	効果確認シミュレーション							
	2/27	金	総合シミュレーション							

## 受講場所 所属消防本部（局）

実技	3/2	月	現場実習						
	3/3	火	現場実習						

## 受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

		日	曜日	1時限 8:30~9:20	2時限 9:20~10:10	3時限 10:20~11:10	4時限 11:10~12:00	5時限 13:00~13:50	6時限 14:00~14:50	7時限 15:00~15:50	8時限 15:50~16:40
座学	3/4	水		R・I (埼玉県衛生研究所)	資機材取扱			社会保障・社会福祉Ⅲ (地域包括ケア課)	救急交通 (埼玉県警察)	修了式 (担当教官)	

**ストレッチャー取扱訓練**



**ヘルメット離脱訓練**



**外傷訓練**



**外傷緊急処置訓練**



**感染症CPA訓練**



**気道異物除去訓練**



**車内活動訓練**



**小児乳児訓練**



### 修了しての感想

第158期救急科81名が無事に修了を迎えることができましたことを、大変嬉しく思います。

これもひとえに、学校教官の皆様、座学講師の皆様、そして実技教官方の御指導と御支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

34日間という決して長くはない期間ではありましたが、日々知識と技術を積み重ね、大変実りある時間を過ごすことができました。

「絶対救命」という言葉を胸に刻み、今後も自己研鑽を怠ることなく、一つひとつの事案に真摯に向き合っています。

すべては傷病者のために。



### 後輩へのメッセージ

34日間という期間は、始まる前は長く感じるかもしれませんが、振り返れば本当にあっという間です。1日1日の積み重ねが、確実に自分の力になります。

日々の訓練や学びは、自分自身を大きく成長させてくれます。仲間と支え合いながら、1日1日を大切に過ごしてください。

「絶対救命」という言葉を胸に、それぞれが自分らしく挑戦してくれることを願っています。

## 修了しての感想

第158期救急科を終えるにあたり、私たちは座学での基礎知識の習得から始まり、実戦さながらの実技訓練を通して、現場での即応力を磨いてきました。

特に、傷病者の病態を的確に把握するための観察や、迅速かつ適切な病院選定の重要性を深く学ぶことができました。また、技術面だけでなく、傷病者やその家族の不安に寄り添うための接遇についても学ぶことができました。

私たちの成長を一番に考えて、熱心に指導して下さった教官の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。私たちがどうすれば前向きに、楽しく訓練に励めるかを常に真剣に考え、私たちの見えないところでも準備を完璧に整えてくださる姿は、本当に格好良かったです。重要なポイントを確実に、かつ工夫を凝らして伝えて下さった教官たちは、私にとって最高の目標です。

ここで得た学びと、教官たちから受け取った情熱を糧に、市民の皆様の信頼に応えられる救命のプロフェッショナルとして、一人前の隊員になれるよう、これからも学び続けます。



## 後輩へのメッセージ

最初は覚えることだらけでパンクしそうになるかもしれないけど、焦らなくて大丈夫です。実戦さながらの訓練を繰り返せば、体は自然と動くようになります。

観察の鋭さや病院選定の早さ、そして傷病者に寄り添う心。そのどれもが、救急隊員としての自信に繋がります。

158期に負けないくらい熱い訓練を期待しています。最高の仲間と最高の教官と最高の訓練をしてきてください！

### 修了しての感想

救急科の研修は、想像以上に厳しく、決して簡単なものではありませんでした。知識や技術だけでなく、判断力や精神的な余裕も求められ、自分の未熟さを痛感する場面が何度もありました。その中で、基礎の重要性や日々の訓練の積み重ねが、現場での対応力に直結することを強く実感しました。

また、仲間と連携しながら活動することの大切さや、互いに支え合うことの重要性を学ぶ貴重な機会となりました。この研修を通じて、救急に真摯に向き合う姿勢と覚悟を身につけることができたと感じています。今回得た学びを今後の救急活動に活かし、より安全で質の高い救命活動が行えるよう努めていきたいと思っています。



### 後輩へのメッセージ

これから救急科に入る後輩の皆さんに伝えたいのは、逃げずに全力で食らいついてほしいということです。失敗してもいい、分からなくてもいい。ただ、そこで止まらず、考えて、聞いて、次に繋げてください。その積み重ねが、現場で命を預かる力になります。

救急は一人ではできません。仲間と声を掛け合い、支え合い、同じ目標に向かって進むことで、初めて本当の救命活動が成り立ちます。苦しい時こそ、周りを頼り、自分も仲間の力になってください。

### 修了しての感想

第158期救急科を修了して基礎訓練の大事さを改めて感じました。現場に出て様々な事案を経験すると思いますが、どの現場でもまずは救急科で学んだ初期評価やバイタル測定から始まります。

だからこそ、実技期間での手技をしっかりと身につけて自信を持ってやれるように繰り返し訓練することが大切だと思いました。

自分たちにとっては数ある現場の一つかもしれませんが、救急車を要請した本人、家族、関係者からしたら当然緊張や不安があると思います。

私たち救急隊がそれを少しでも和らげてあげられるよう接遇や自分の手技をこれからもっと確立させていきたいです。



### 後輩へのメッセージ

第2小隊副総代としてもっと総代のフォローに当たれたらと思いました。ほとんどの仕事が総代に任せられそのまま終わってしまうので副総代、分隊長関係なく皆んなで総代をフォローして全員で救急科を盛り上げてください！救急科最初は分からないことだらけで退屈に思う時もあるかもしれませんが、だんだん自分にできることも増えて最終的にめちゃくちゃ楽しいと思います。なので積極的に講義に参加して時間が許す限り訓練に参加してください。1ヶ月半あっという間に終わってしまうので思い残すことのないように過ごしてください！